

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2020/03/05～2020/05/04)

1. 勉学の状況

欧州におけるコロナウイルスの急速な感染拡大を受け、チェコにおいても3月の2週目から緊急事態宣言が出され、それに伴い大学も休みになりました。当初は2週間の休校のちに授業再開の目処を立てていましたが緊急事態宣言も延長する流れの中で、徐々にオンライン上での今semesterの学習が提供されるようになりました。

学習形態としては、主に毎週授業の代わりに授業に関連する動画や文献のURLがオーストラリア大学のウェブメールから送られてきて、それを題材にレポートを作成というものでした。また、授業内でやる予定であったプレゼンテーションのスライドを提出し、オンライン授業で発表や、オンラインでクラスメイトとフィードバックし合うなどして可能な限り予定されていた内容を学習できるよう工夫されていました。そのほか留学生向けに開講されたチェコ語の授業を履修しているのですが、各自で指定された範囲を教科書で学習し、教員にメールで課題を提出するという形を取っていました。

3月の下旬に帰国するまでの期間は寮で自主学習をしていました。寮の部屋は決して広いものではなく、同室には二人のルームメイトがいた上にその恋人も主に私たちの部屋で過ごしていた為、長時間集中して学習できる環境ではありませんでした。そのため、寮にある学習室というパソコンが使える部屋で課題に取り組んでいました。しかし三月後半に入ると、学習室もコロナウイルスの影響で使用できなくなってしまったので、帰国直前の1週間ほどはあまり集中して学習に取り組めていませんでした。

各授業、留学生にて対し帰国後も履修できるように体制が整った為、帰国後は引き続きオンラインで課題を提出したり、ZOOMを使用したオンライン授業に出席したりして留学を継続しています。4月の一ヶ月間はそのようにして過ごしました。一人暮らしで集中しやすい環境にある為、学習が捗る一面もありながら、同時に、出席して取り組むというある意味の強制性が無いと己を律し集中力を持続させる難しさも感じました。また授業の代替課題という事で実際に生徒の負担が増えた事もありました。例えば授業に出席している時間のディスカッションやプレゼンテーションが、長めの文献や資料を読んだレポートという約1日かかりの課題に変わったりして、語学のスキルによって課題の重さに個人差が出たように感じました。

しかし一方で、この一ヶ月間の自宅でのオンライン留学を通し自分自身の成長に繋がったとも感じています。オンライン授業での聞き取り、自分自身のプレゼンテーションでのスピーキング、課題を通しての読解と英作文の良い訓練になったことはもちろんのこと、自身が学びたいと希望した授業を引き続き受講出来た事で、帰国後においても学びを深められたからです。残り一ヶ月ほどになると思いますが、完全な形では無いにせよ、最後まで与えられたせっかくの学びの機会

を最大限に活用し吸収していきたいと考えています。千葉大学の授業との両立が難しく心が折れそうになった時には初回と併せて本報告書を読み返したり、これまでの課題を見返したりして初心を取り戻したいと思います。

2. 生活の状況

生活の状況は、先述でも触れたように 3 月中旬から大きく変わりました。緊急事態宣言が出されたことにより、外出が制限されました。飲食店のほとんどが閉まった事もあり、基本的に三食自炊という生活でした。散歩は制限されていなかった為、天気の良い日は大学近くの川沿いや丘に登るなどして身体を動かし、気分転換もしていました。3 月後半に寮内でもマスク着用と他人とのソーシャルディスタンスが義務化されるまでは、寮のロビーのフードコートで、他の留学生達と一品持ち寄りのディナーを頻繁に行い、自主隔離期間においても交流を図っていました。しかしそれも 3 月後半には難しくなった為、ほとんどの時間を部屋で過ごし、友人と二、三人で午後一度散歩の際に外出するという生活を送っていました。緊急事態宣言が出されたことにより、一人になれる時間がほとんどなくなった事が想像以上にストレスに感じられました。ルームメイトの一人が、基本的に恋人と一緒に行動していたのですが、外出が制限された事で私達の部屋で日常を共に過ごすようになり、私自身のプライバシーや生活に影響が出ていました。ルームメイトに一度そのことを相談したのですが、その時は真摯に受け止めてくれたものの、恋人の方の納得がいかなかったようで、私と彼との関係がギクシャクしてしまいました。そしてその後も彼は私の部屋に居座り続けていたので、帰国せずに現地で留学を続けるのであれば、寮の事務に掛け合って部屋を移動させてもらう予定でした。

そのような問題もあった一方で、緊急事態宣言の中、オストラバ川や丘まで散歩したりとその土地の自然を感じる事が出来た期間でもありました。普段なら通学にバスを使っていた道のを歩くだけでも違った景色が見られました。またバスが通らないような小道を歩き、この道がここに繋がっている、といったように土地勘がついていき私はオストラバで生活しているのだという実感が湧きました。3 月以降、出来る事や経験できることは限られていましたが、その中でいかにこの期間を有意義なものにするかというポジティブな思考に変えた事で、現地に滞在した時間は二ヶ月未満であったものの非常に印象に残る経験になりました。また、このような事態になったからこそ、普段の週末であればほとんどの留学生が旅行に行くなどして交流ができないところを、寮に全員がいる事で交流を深める事ができました。

さらに、世界各国のコロナウイルス感染拡大の状況を、留学生という立場でもあり、自分自身に大きく関わる事として情報収集に尽力した事も私にとって留学先での大きな経験の一つになりました。チェコ共和国の状況と外国人への対応や、欧州各国での動向や対応、日本の帰国者への対応や大学の方針、外務省の対応、それらを踏まえた上での最終的には私自身の判断、というように様々な状況を加味して考えなければならなかった為、毎日その判断も状況に応じて変化していました。さらに、他の留学生とこの機会にそれぞれの出身国でのコロナウイルスへの対応や国民の反応など、私が普段目にするメディアでは知り得なかった情報を共有でき、政治に対す

る考え方や WHO などの公的な機関でさえも政治的な要因で完全には信用できないという事など、意見を交わす中で学ぶことが沢山ありました。帰国をするという決断に至ったのも、3月下旬以降、日本行きのフライトが急遽キャンセルになっているケースが増えたからでした。日本の帰国者に対する水際対策の検疫強化により、帰国後の14日間自宅に自主隔離をし、毎朝の検温をして大学に提出していました。その期間は友人の保護者から食料を届けて頂いたり、学部の教職員からの救援物資や両親からの仕送りなど、様々な人の支援があって生活することができました。帰国後の一人の隔離期間、自分自身が帰路で感染していないか不安な心持ちでありましたが、様々な人からの支援やお声掛けが本当に有難く感じられました。

隔離期間が終了して後も、日本も緊急事態宣言下であったので、継続している留学の課題の合間に、息抜きとなるように散歩と食料調達をしています。また、この期間も留学を継続できているということで想像以上に日々忙しく過ごしていた為、士気を保つために、同じく帰国後も留学を継続している友人と連絡を取り合ったりしてモチベーションを高めあっていました。

今期の留学も残すところ一ヶ月ほどですが、新たに始まる千葉大学のオンライン授業とクロスメジャープロジェクトワークとの両立ができるように、規則正しく、息抜きもうまく活用し最後まで頑張っていきたいと思います。